泥土逃走劇

karasuno10

不安

泥土逃走劇

烏野　博史

人　物

赤一（せきはじめ）（16）暴力団員
葵勇助（あおいゆうすけ）（20）暴力団員
白井風香（しらいふうか）（15）中学生
秋山寛（あきやまひろし）（40）医者
太田大輔（おおただいすけ）（20）暴力団員
細田平助（ほそだへいすけ）（20）暴力団員
黒木賢二（くろきけんじ）（25）暴力団員
店主
客達

①聖母病院・玄関前
セミの鳴き声。ドアの横には墨で〝聖母病院〟と書かれた木製看板。

②同・病室
白井風香（しらいふうか）（15）が窓際の寝台で上半身を起こしている。風香の横に秋山寛（あきやまひろし）（40）が立っている。寝台の横の引き出しの上にはラジオがのっている。
ドアを開く赤一（せきはじめ）（16）に気付く風香。
赤は帽子を被っている。

風香「赤！」
赤が秋山と風香の側に歩いてくる。
秋山「その帽子、すすけてきたね」
秋山は笑う。
赤「ほっとけヤブ医者」
赤は風香のほうを見て
赤「元気そうだな」
風香は笑い、手でピースを作る。
風香「まぁね。もう少しうちに金があったら

治ってるわ」
赤は秋山を一瞥し、帽子のつばを触る。
赤「……そうだな」
赤がつけたラジオは台風接近を告げる。

③暴力団・事務所（夕）
拳銃片手に椅子に座る黒木賢二（25）
と直立した葵勇助（20）が机をはさみ
向き合う。一つあるドア横に太田大輔
（20）と細田平助（20）が立っている。
拳銃をしげしげと見つめる黒木。
黒木「赤が金を持ち逃げた。お前が始末しろ！」
葵は直立したまま、
葵「……あいつ喧嘩強いですよ」
拳銃を撃つ黒木。葵の背後の壁に弾痕。
黒木が差し出す拳銃を受け取る葵。
葵は拳銃を服の下、ズボンに押し込む。
葵はドアから出て行く。
黒木が二度ドアを指差すと、太田と細
田がドアから出て行く。

④商店街（夕）

ゴロゴロと鳴る薄暗いくもり空。うどん屋の前で腕を組む葵。道行く人々のうち数人は空を見ながら道を急ぐ。

ぱらぱらと雨が降り始める。

葵は空を見て、うどん屋を見る。

×　×　×

うどん屋を挟んで反対側の道。

腹を押さえた赤はうどん屋を見る。

道の角から細田がやってくる。うどん屋に入る赤を見る細田。

うどん屋ののれん。

⑤うどん屋（夕）

外は雨。二つの入口のあるうどん屋。

座席の８割が客達で埋まっている。

一方の入口１から赤が背後を気にしながら入り、カウンター席に向う。

別の入口２から葵が腕を組み地面を見

つめながら入り、カウンター席に向う。
となり同士に座る葵と赤。
葵「親父、素うどん一人前よろしく」
赤「（同時に）素うどんをくれ」
即座に互いの顔を見合わせ、立ち上がる赤と葵。
赤「葵！」
葵「（同時に）赤、お前!?」
服の下の拳銃に手をかける葵。
談笑する客達を見る葵、椅子に座る。
葵「最近見ないと思ってたらどうした？」
赤も椅子に座り、帽子のつばを触る。
赤「……それなら、商売の場所を変えた」
葵はうなずき、座席を立つ。
葵の腕を掴む赤の手。
葵はびくりと体を震わせて、赤を見る。
真剣な眼の赤、頬を汗が伝う。
赤「どこに行くつもりだ」
赤を見て唾を飲む葵。
葵「便所だよ――」

赤「（即座に）本当か？」
荒い息づかいでにらみ合う赤と葵。
葵「……とにかく離せ」
赤は葵を睨みながら立ち上がる。
赤「（大声）駄目だ。便所へは俺が店を出てから行け！」
唖然と赤を見つめる店主。
客達は静まり赤と葵に注目する。雨音。
葵は客達を見て、赤の手を振り払う。
服の下の拳銃をさわる葵は赤から眼を離さず二、三歩あとずさると踵（きびす）を返し、まっすぐ入口２の方向に歩いていく。
赤は葵の方向を見て、眼を見開く。
入口２の外に雨に濡れた太田が現れる。
赤「くそぉっ！」
椅子を引き倒し、入口１に走る赤。
入口１から雨で濡れた細田が駆け込む。
細田「何やってんだ葵！」
細田を押し倒し、外にころがり出る赤。

⑥空き地（夕）

大雨で視界が悪い。空き地中央には大きな水溜りができ、水溜りの中央にはバスが止められている。バスの車体は錆（さび）だらけで窓にはガラスがない。

空き地に駆け込むびしょ濡れの赤は息を弾ませながら辺りを見回す。

赤「金をくすねたのがばれたか。金の残りもさっさと回収しとかないとな」

赤はバスに駆け込む。

⑦バス（夕）

雨が天井を叩く音。バスの床板は木製で所どころ腐っている。バスの中はうす暗がりで壁に皮袋がかけられている。

赤が駆け込んでくる。

赤は皮袋を取ってきて、床にしゃがむ。

赤の手によりパコリと外れる床板。

床板の下には新聞紙で包んだ札束。

札束を手元の皮袋に入れていく赤。

葵の声「（大声で）赤の足跡だ！　周り込め！」
太田の声「（大声で）何て言った？」
細田の声「（大声で）とにかく、回り込むぞ！」
床板を戻し、入ってきた方向を見る赤。
中腰でバス後部を見る。
風雨で吹きさらしになった後部座席と
その背後に開かれた窓。
息を弾ませる赤。
運転席横入口から懐中電灯の明かりが
運転席を照らす。
皮袋を担ぎ、全力でバス後部に走る赤。
赤「（雄叫び）」
赤は後部座席手前で床板を踏みぬき、
床下に落ちる。
バスの天井を大雨が叩く中、葵が懐中
電灯を持ってバスに入ってくる。
葵「（大声で）おい、今何か言ったか!?」
懐中電灯でバス後部を照らす葵。
バスの後部の床板が大きく抜けている。
葵は抜けた床を避けながら後部座席方

向に歩いていく。

×　×　×

床下。

皮袋を握りしめた赤が仰向けで水溜りに沈んでいる。

暗闇の中、外からの薄明かりが落ちてきた穴から差し込む。

葵の足が床板を叩く。じっと床板の穴を見つめる赤は息を殺す。

水溜りの水位は増していく。

⑧空き地（夕）

大雨。バス後ろ側の空き地に立つ太田。

バスの後部の窓から顔を出す葵。

葵「（大声で）おい、今何か言ったか!?」

太田「（大声で）なんて!?　赤はどうした！」

葵はバスの中を振り返る。

⑨バス（夕）

雨音。バス後部で床の穴を見ている葵。

葵は懐中電灯で床板の割れ目を照らす。
葵は眼を細め、服の下から、拳銃を取り出す。
×　×　×
床下。
水溜りの中に浮かぶ赤はバスの床にできた穴を見つめる。
穴から差し込む懐中電灯の光が揺れている。穴に近づく足音。
×　×　×
床上。
拳銃片手に葵が懐中電灯で穴を照らす。
にごった水溜りが照らし出される。
眼を見開き、水溜りを凝視する葵。
懐中電灯の光が赤の服の端をとらえる。
服の端を見つけ、さらに穴に近づく葵
だが床板の一部が崩れ、懐中電灯を床下に落とす。葵はとっさに後ずさる。
穴に落ちた懐中電灯の光が消える。
葵は顔にしたたる雨水をぬぐう。

太田の声「（大声で）赤はいたのか。いなかったのかどっちだぁ！」
葵は後方の窓の方向を見る。
葵「（大声で）いない！　ここじゃぁない！」
葵が入口から出て行く。
大雨がバスの天井を叩く。
床の穴から再び懐中電灯の光が漏れる。
×　×　×
床下。
左手に皮袋、右手に明かりのついた懐中電灯を持った赤が息を弾ませ、水面に浮かんでいる。

⑩聖母病院・玄関前
ドアの横には〝聖母病院〟の木製看板。
玄関先には泥だらけの皮袋に赤の帽子と手紙が添えられている。
セミの鳴き声、屋根から水滴がたれる。
傘を持った秋山が病院へやってきて、赤の帽子を拾いあげる。